良心の砦－東大 YMCA
会館竣工 50 周年記念誌



巻　頭　言



良心の砦－巻頭の辞に代えて－

月本昭男（1971 年 文卒）
公益財団法人東京大学学生キリスト教青年会
第 13 代理事長

東京大学学生キリスト教青年会（以下、青年会）は、周知のように、1888 年 5 月 13 日に創立された。創立者 9 名のうちの 3 名、文科大学生大西祝、理科大学生五島清太郎、医科大学生高田畊安は、大学入学以前、京都の同志社英学校で新島襄の薫陶を受け、高田と大西は新島から洗礼を授けられている。創立者の最初に名指される大西祝は、青年会設立の翌年、哲学科を首席で卒業して大学院に進み、1890 年に『良心の起原論』の初稿を書き上げた。

大西が「良心」と取り組んだ背景に新島襄の直接的な影響があったろうか。良心教育を掲げた新島襄は「良心之全身ニ充満シタル丈夫ノ起リ来ラン事ヲ望テ止マサルナリ」との言葉を残している。もっとも、良心という漢語は『孟子』に由来し、明治初年、儒学者・横井小楠は明治天皇の教育のために著した一書に「人の良心は人の道なり」と記し、キリスト教については「その尊ぶところ耶蘇を以て宗とし、道は人の良心に基づくことを知らず」と批判したという。ところが、この儒教的概念は、明治初期から英語 conscience の訳語としてひろく認識され（最初の使用は中村正直か）、植村正久は日本初のキリスト教弁証論と目される『真理一斑』で繰り返し「良心」に言及し、内村鑑三も「良心」をことのほか重視した。大西祝『良心の起原論』の背景には、こうした事情もあったろう。

大西がこの論文を書き上げた翌 1891 年、内村鑑三「不敬」事件が起こり、これを機縁に、キリスト教批判が言論界に巻き起こった。なかでも帝大哲学科教授・井上哲次郎は「忠孝」と「愛国」を掲げ、キリスト教を「反国家的である」と決

めつけた。こうしたキリスト教批判に理路整然と反論を試みた大西は、論文を東京大学に提出しなかった。その第 1 章「良心トハ何ゾヤ」は『哲学会雑誌』に発表し、『六合雑誌』には新たな論考「良心の意義を論ず」を寄せている。1900 年に 36 歳で逝去するまでの大西祝のその後の足跡については割愛するが、『良心起原論』は『大西博士全集』第五巻として 1904 年に刊行され、版を重ねた。1904 年は吉野作造が法科大学政治学科を首席で卒業した年であり、大西が掲げた「良心」は吉野の胸に深く刻まれたにちがいない。吉野は 1917 年に青年会第 3 代理事長に選任されるが、その前年、青年会理事会は「故大西氏記念日 11 月 2 日を以て毎年物故会員の追悼会を為すこと」を決定している。

1919 年 3 月 1 日に朝鮮で「3・1 独立運動」が起こるや、吉野は「対外的良心の発揮」と題する長文の論考を『中央公論』1919 年 4 月号に掲げ、朝鮮総督府による朝鮮統治の姿勢を厳しく問い質した。1923 年 9 月 1 日の関東大震災直後の混乱のなかで発生した朝鮮人虐殺事件の際には、論考「朝鮮人虐殺事件に就いて」を『中央公論』11 月号に寄せ、真相究明を要請するとともに、当時の日本社会と政府の姿勢を厳しく批判し、「あれだけの暴動があってもなお少しも覚醒の色を示さないのは、いかに良心の麻痺の深甚なるかを想像すべきである」と記している。吉野にこのような朝鮮理解をもたらした重要な機縁は、青年会の理事長として、寄宿舎に迎えた意識の高い朝鮮人留学生との交流であった（『吉野作造選集』第 9 巻解説）。じじつ、吉野は青年会会館において中国と朝鮮からの留学生との懇談の機会を設け、理事長就任後はこれを定常化している。

当時、文科大学嘱託講師であった斎藤勇（青年会理事であったか）は、「3・1 独立運動」のなかで起こった「堤岩里教会焼討事件」について、その詳細を海外の新聞で知り、「或る殺戮事件」と題する長い詩文を『福音新報』に掲載して、「君は茅屋の焼跡に立って / まだいぶり立つ臭気が鼻につかないか / 乳呑み児をだいたままの若い母親 / 逃げまどうて倒れた年よりなどの / 黒焦げになった惨状が見えないか」と読者に畳みかけた。戦時中、教授になっていた斎藤勇は、教授会で軍国主義批判の姿勢を鮮明にしたと伝えられる。1946 年、彼は青年会の第 5 代理事長に選任された。

斎藤勇の後を継いだ堀豊彦先生は、現在の会館・寄宿舎の完成までのほぼ四半世紀、理事長としての責任を全うしてくださった。吉野の直弟子として西洋政治思想史を専攻された先生は、東大に移籍後、本駒込のじつに質素な吉野作造旧宅に住んでおられた。私どもが舎生であった時期、先生はすでに東大を退官されていたが、何度か、私どもをご自宅に招いてくださり、学問を志す者たちを諭すかのように、自分は政治学徒として人間の平等と国際平和を信条としてきた、と語られた。じっさい、先生は 1951 年に発足した「キリスト者平和の会」に最初期から関わり、委員長として責任も負われ、最晩年まで平和行進と募金活動の先頭に立ち続けられたのである。募金は被爆者の会に届けられた。

堀豊彦先生を継いだ高見顕治先生はわずか 2 ヶ月で帰天され、代わって農学部教授・高井康雄先生が理事長に就任された。土壌学を専攻された高井先生が、20 歳代の若き研究者として、信州の荒蕪の地、御牧原と八重原に水路を通し、稲作を可能にする事業に携わられたことを知る人は多くないかもしれない。御牧ケ原では、青年会同期の住谷一彦先生とともに、農民福音学校の講師もつとめられた。物静かな先生であったが、青年会において、日本企業はフィリピンから山単位で木材を買い付けるが、伐採後に植林を行わない、そのために洪水が発生し、多くの人命が損なわれたことを知っておいてほしい、と語られたことが忘れがたい。

以上、歴代の青年会理事長の一面を少しく紹介させていただいたが、青年会の寄宿舎で学生時代を送った先輩方の多くもまた、戦前か戦後かを問わず、旧舎か新舎かを問わず、それぞれの分野において「地の塩、世の光」として歩まれている。それは、青年会寄宿舎において多くの先輩方が、キリスト教を通し、先輩方との接触を介し、なによりも舎生間の交流を深めるなかで、知らずして、自らのうちに良心を育んだからにちがいない。私どもの連なる青年会は、じつは日本における小さな「良心の砦」であったのではなかろうか。

新寄宿舎が 50 周年を迎えて、これまでの執行役員は次の世代に引き継がせていただくが、これからも青年会が「良心の砦」であり続けることを願わずにはいられない。

（2026 年 3 月 1 日記）

目　次

第1章　東大 YMCA 会館 50 年の歩み 1

第 2 章 卒舎生寄稿エッセイ 17

森有正と木下順二　大口 邦雄（1956 年理卒）..... 19
旧舎の思い出とクリスマスプレゼント　二神 康郎（1960 年農卒）..... 21
東大 YM 寮舎生としてすごした日々　小出 達夫（1963 年教育卒）..... 23
バッハのカンタータを歌い続けた東大 YMCA コーラス　関澤　純（1966 年農卒）..... 25
東京大学 YMCA の思い出　久保田 信行（1967 年法卒）..... 27
富永 徹 さん のこと　垣内 史堂（1970 年医卒）..... 29
東大 YMCA 会館・寄宿舎　建設小史　岩見 宣治（1971 年工卒）..... 31
気になる“先輩”　篠原正雄（1971 年理卒）..... 37
旧舎から新舎へ　清水 正之（1971 年文卒）..... 39
東大 YMCA 寮から戴いたもの　半田 武比古（1977 年工卒）..... 41
はるかなる東京大学 YMCA　山口 栄一（1977 年理卒）..... 45
ウズラなんですけど　小林 辰美（1977 年文卒）..... 47
私にとっての東大 YMCA　柿谷 均（1977 年理卒）..... 49
東大 YMCA 新舎という出来事　合田 隆史（1978 年法卒）..... 51
寄宿舎の思い出　西　正典（1978 年法卒）..... 53
シンプル　イズ　ベスト　灰本 周三（1978 年経卒）..... 55
東京大学 YMCA の思い出　倉光 泰隆（1978 年法卒）..... 57
呑喜と南洲屋と…　飯島 康一（1980 年経卒）..... 59
東大 YMCA 寄宿舎にいた頃　高谷 武良（1982 年法卒）..... 61
東京大学 YMCA 会報によるつながり－預言など投稿　近藤 信和（1987 年法卒）..... 63
岩井要先生と青い祈祷室　岩佐 明彦（1994 年工卒）..... 65
東大 YMCA の今昔　五百旗頭　薫（1996 年法卒）..... 67
1980 年代以降の 20 年間における、寄宿舎としての東大 Y の変化と不変
　中村 義哉（2000 年経卒）..... 73
東大 YMCA なくして我が信仰なし　関　智征（2003 年法卒）..... 77
兄に囲まれた長男　田川 義之（2004 年工卒）..... 79
東大 YMCA 寮で過ごした日々　三浦 真（2006 年経卒）..... 81
東大 YMCA のおかげさまで　半田 淳比古（2008 年医卒）..... 83

熟議を尽くす—寄宿舎生活を振り返って　木原　盾（2015 年文卒）..... 85
与えられた恵み　木原（金子）友紀（2017 年教育修士修了）..... 87
神様を求める気持ちを大切に　徳永（草間）友花（2018 年工博士修了）..... 89

第 3 章 現役舎生・関係の方々の声 91
3-1 概説編 93
2023-2026 の舎について　米倉　敬宏（農学部、2023 年入舎）..... 93
生活の様子　那須 清崇（公共政策大学院、2025 年入舎）..... 95
3-2 活動編 98
早天祈祷会　Theodorus J. Wijaya（工学系研究科、2019 年入舎）..... 98
聖書研究会　Shen Jie（工学系研究科、2025 年入舎）..... 99
総会　石井　蓮（農学生命科学研究科、2022 年入舎）..... 100
日直・掃除　H.K.（工学部、2025 年入舎）..... 101
食事　米倉　敬宏（農学部、2023 年入舎）..... 102
会計　白川　裕都（経済学部、2024 年入舎）..... 103
修養会　D.Y.（新領域創成科学研究科、2023 年入舎）..... 104
駒場祭　米倉　敬宏（農学部、2023 年入舎）..... 105
3-3 場所編 107
礼拝堂　白川　裕都（経済学部、2024 年入舎）..... 107
食堂　Esther O.（公共政策大学院、2025 年入舎）..... 108
厨房　太田　萌（情報理工学系研究科、2024 年入舎）..... 110
喫煙所　石井　蓮（農学生命科学研究科、2022 年入舎）..... 111
OB 談話室　Tavana Alireza （工学系研究科、2024 年入舎）..... 112
お風呂　ブディオノ・クリスチャン・ミレニュー（工学系研究科、2021 年入舎）... 113
廊下　関口　玲（文学部、2025 年入舎）..... 114
三階談話室　D.Y.（新領域創成科学研究科、2023 年入舎）..... 115
舎生部屋　鎌田　将（人文社会系研究科、2025 年入舎）..... 117
卓球室　桐生　有喜（教養学部、2024 年入舎）..... 118
図書室　神野　和磨（理学系研究科、2025 年入舎）..... 119
客室　W.H.（学際情報学府、2023 年入舎）..... 120
3 階・4 階ベランダ　M.M.（経済学研究科、2025 年入舎）..... 121
祈祷室　崔　民赫（法学政治学研究科、2021 年入舎）..... 122
3-4 関係の方々の声 123
東大 YMCA 事務局の変遷　明神 恵子　永田 智子（事務局）..... 123
東大 YMCA 事務局回想　桃井明男 124

調理師の声　小幡 公雄（調理師）……126

第 4 章 卒舎生座談会―世代を超えた語らい……127

第 5 章 会館竣工 50 周年記念行事報告……159

5-1 会館竣工 50 周年記念式典・祝賀会記録……161

5-2 50 周年記念講演会記録「大地と建築と祈りの場」團 紀彦（1979 年工卒）……165

第 6 章 資料編……175

6-1 東大 YMCA 戦後 80 年史年表（1945 年～2025 年）……177

6-2 記録資料……349

6-2-1 歴代理事長一覧（1906 年度～2025 年度）……349

6-2-2 歴代常務理事等一覧（新舎：1975 年度～2025 年度）……350

6-2-3 歴代理事・監事・評議員一覧（1947 年度～2025 年度）……351

6-2-4 舎生数の推移（1945 年～2025 年）……367

6-2-5 会館・寄宿舎概略図……373

あとがき……375